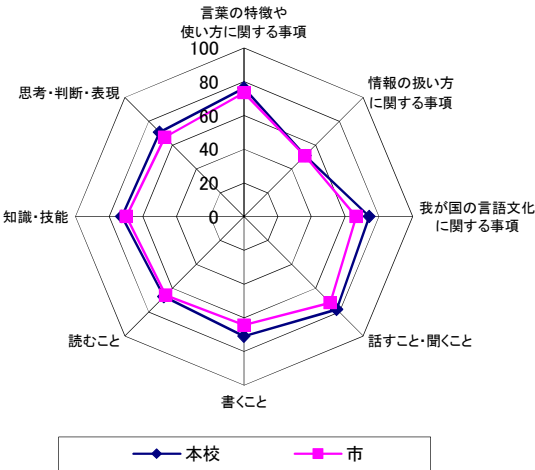


宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	76.2	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	51.3	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	74.4	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	77.8	72.3	73.7
	書くこと	70.9	64.3	66.6
	読むこと	67.1	65.8	64.9
観点別	知識・技能	72.5	69.8	70.8
	思考・判断・表現	70.8	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

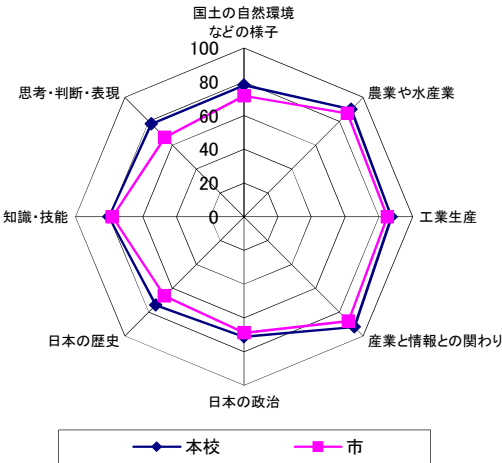
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○第5学年に配当される漢字についての問題の正答率が高い。 ●三字熟語の成り立ちや敬語についての問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・教科書などを活用し、学習した漢字や敬語を、朝の学習や国語の授業で復習をしたり、意識しながら話したりする活動を設ける。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同等。 ●文章の情報を整理する問題の正答率が低く、情報同士の関係を捉える力が十分でない児童が見られる。	・情報と情報との関係について改めて授業で触れたり、図などを用いて情報と情報との関係を視覚化する活動を行ったりする。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解できている。	・今後も我が国の言語文化に親しめるように、和語・漢語・外来語に触れる機会を多く設定していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題は、正答率が高い。 ●インタビューの中で、話し方の工夫として最も適切なものを選ぶ問題については正答率がやや低い。	・基本的な話し方や聞き方を確実に押さえ、話し手の目的や自分が聞こうとする意図を意識して聞く活動を取り入れたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自分の意見とその理由を明確にして書く力が身に付いている。 ○予想される反論とそれに対する意見を書く問題の正答率が高い。 ●目的や意図に応じた書き表し方の工夫を選ぶ問題の正答率は、やや低い。	・目的や意図に応じた書き表し方を工夫する学習に引き続き取り組ませていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○物語の描写から、登場人物の心情を捉えることのできる児童が多い。 ●説明文の文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題の正答率が低い。	・説明文の文章の構成を正しく理解できるように指導するとともに、その内容を短くまとめる活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.0	71.6	69.6
	農業や水産業	90.0	86.7	83.7
	工業生産	87.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	92.5	87.7	77.4
	日本の政治	71.3	68.9	71.7
	日本の歴史	74.1	66.7	66.3
観点別	知識・技能	80.1	78.0	76.7
	思考・判断・表現	77.8	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

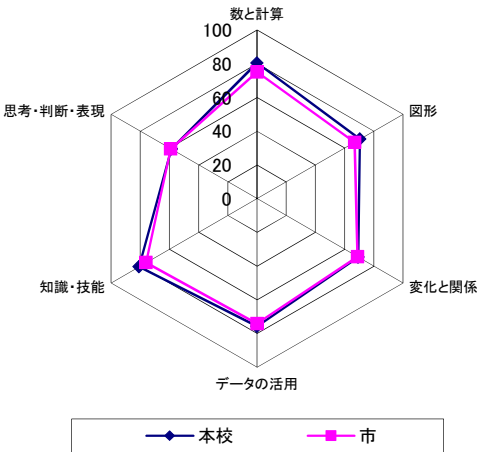
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本の主な地形(湖)の名称についてよく理解しており、市の平均正答率よりも16ポイント高い。 ●日本の周辺の海洋名の正答率は85%であり理解しているが、市の平均正答率よりも2.3ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本及び日本周辺の地理への関心を高めるために、他の領域の学習の際にも地図帳などを活用する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より高い。 ○米の生産が盛んな地域や水産物の流通の工夫についての正答率は95%であり、資料をもとに判断することができている。 ●米の生産の工程の正答率は80%であり理解しているが、市の平均正答率よりも1.6ポイント低い。	・今後も、授業の中で資料を丁寧に読み取る活動を取り入れたり、地域の特性を生かして、米作りの生産過程を理解したりすることができるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日本の工業生産の正答率は、すべて市の平均正答率を上回っている。	・日本の工業の特色についての理解を更に深めるために、資料をもとに分かったことを文章でまとめたり、説明したりする活動を多く取り入れていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均より高い。 ○さまざまなメディアの特徴について答える問題の正答率は100%であり、全ての児童が理解している。 ○情報の発信と受信の注意点についてよく理解しており、市の平均正答率よりも5.9ポイント高い。	・5年生で学習した情報に関する学習内容についての復習を今後も継続して行う。
日本の政治	平均正答率は、市の平均より高い。 ○内閣の働きについて答える問題では、市の平均正答率を12.6ポイント上回っているが、正答率は55%であり、半数程度に留まった。 ●天皇の地位について答える問題の正答率は57.5%であり、市の平均正答率を5.5ポイント下回った。	・常日頃から、時事的な話題を取り上げ、政治の仕組みについての理解を深めていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より高い。 ○源平の戦いについて答える問題の正答率は85%であり、市の平均正答率を29.3ポイント上回った。 ●源氏物語について答える問題の正答率は65%であり、市の平均正答率を12.2ポイント下回った。	・既習内容を定期的に復習し、知識がしっかりと身に付くようにしていく。 ・人物と内容が結びつくように、視覚教材や図書などを利用して理解を深められるようにする。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.5	75.1	75.8
	図形	70.5	66.8	68.3
	変化と関係	69.2	68.8	65.0
	データの活用	75.7	74.1	63.6
観点別	知識・技能	80.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	58.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

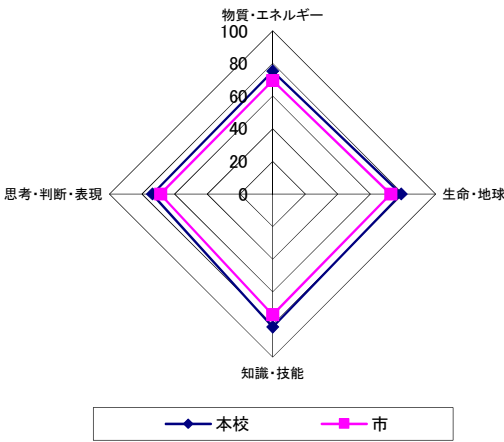
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数どうし、分数どうしのかけ算やわり算の計算について計算の仕方をほとんどの児童が理解している。 ○文字を使って2つの式の関係を1つに表したり、文字の値を求めたりすることができる。 ●図を見て小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式することが十分ではない。	・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で基礎・基本の定着を図っていく。 ・文章問題の意味を理解し、立式できるように繰り返し練習させ、習熟を図る。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○正六角形の作図方法から、円の中心の周りにできる角の大きさを求め方を理解している。 ○合同な三角形を作図方法をよく理解している。 ●面積や体積を求め方の理解が十分とはいえない。	・図形の面積や体積を求める公式を活用した応用問題にも取り組み、習熟を図っていく。 ・対称な図形について、実際にかいたり具体物を活用したりすることで定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○速さと道のりから、時間を求めることについて理解している児童が多い。 ●面積と数の割合を求め、混み具合を考える単位量あたりの大きさについて理解が十分とはいえない。	・単位量あたりの大きさ、速さについては、引き続き応用問題などを朝の学習や家庭学習で実施し定着を図る。 ・基準量と比較量を見極めて割合を求める学習を繰り返し指導して定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○円グラフから割合を読み取ることはよくできていた。 ○度数分布表の見方や、ドットプロットから最頻値や中央値の読み取り方について十分理解している。 ●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときに、平均からおよそ何歩かかるかを求めることが苦手な児童もいる。	・データの活用で扱う語彙の意味を理解し、計算によって値が求められるよう、繰り返し指導し定着を図る。 ・日頃から、自分の考えや理由を言葉で表現できるよう、繰り返し指導していく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.2	69.5	65.2
	生命・地球	78.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	81.5	74.0	70.7
	思考・判断・表現	73.8	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「電流のはたらき」の設問では、電磁石の性質をもとに、磁力を強める方法を記述することができ、市の平均を11ポイント上回った。 ○「水溶液の性質」の設問において、実験の結果を読み取り、それぞれの水溶液の性質を理解していた。特にリトマス紙の色の変化についての設問では、市の平均を14ポイント上回った。 ●「ふりこのきまり」の設問において、振り子の周期は、振り子の長さによって決まることを説明することは十分とはいえない。	・目的に応じた実験計画を児童が立案できるようにするために、課題を明確にし、科学的な見方・考え方を働かせ、実験や観察に取り組めるように、既習事項や生活経験を生かした授業展開を行い、自ら解決しようとする児童の育成に努める。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「流れる水のはたらき」の中で、流れる水が地面を削るはたらきの実験結果を推測することができ、市の平均より約14ポイント上回った。 ○「生物とかんきょう」の設問では、食物連鎖を基に農家がテントウムシを畑に放す理由を推測することができており、市の平均を16ポイント上回った。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」の設問では、消化された養分を吸収する臓器について理解が十分ではなかった。	・図やモデル、映像教材、タブレットなどを活用して視覚的に理解できるようにするとともに、学習内容と実生活との関連に気付かせる機会を多く取り入れる。

宇都宮市立豊郷北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	授業への取り組みについての設問では、すべての項目について肯定回答割合が高く、前向きな態度で授業を受けている様子がうかがえる。6学年の学力調査においても、「知識・技能」は市の平均を超えており、授業での取り組みが成果として表れていると考える。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	授業への取り組みについての設問の中の「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」については、3年生から6年生の肯定回答割合が市に比べて高い。6学年の学力調査の国語・理科・社会において、「思考・判断・表現」は市の平均を上回り、得られた知識の活用やそれを表現する文章力が向上し、考えを深められるようになったと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

「基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着」は、児童の能動的な授業への取り組みにつながり、基礎基本となる知識・技能を身に付けることができるものである。今後もこのことを意識して授業を展開していきたい。

「学習のねらいを達成させるための学び合い」については、本校の研究課題であるICTを効果的に活用し、協働的な学びを積み重ねてきた。児童が主体的に学ぶ取り組みを授業内に設定することで、本時の課題について、児童が自分の思いを友達に伝えたい、聞きたい授業につながったと考えられる。今後は、自分の言葉で本時の学びを整理し表現できるように、時間の確保や授業形態を工夫し実践することで、児童の思考力・判断力・表現力の向上に努めたい。